

2022年度日本フンボルト協会ドイツ研究留学説明会

留学説明会への DAAD の参加について

DAAD より申し入れがあり、DAAD も本ドイツ研究留学説明会に参加することとなった。DAAD は博士課程での留学志望者を対象とし、全体説明会で DAAD 奨学金の説明を行う。専門別分科会では、DAAD 奨学金で留学した経験者を招待して DAAD 分科会を開催する。

留学説明会の内容について

当日のスケジュールなどを以下のようにする。

全体説明会(14:45~15:50)

14:45-15:15 DAAD 奨学金の説明

15:15-15:50 日本フンボルト協会による留学支援の紹介（鏑田）、
フンボルト奨学金の説明（高山）、

専門別分科会(16:00~18:30)

博士研究員としての留学志望者対象（フンボルト）

人文科学、社会科学、理工系、生命科学系、医学系の5分科会
博士課程大学院生としての留学志望者（DAAD）

DAAD 分科会

分科会の司会／留学経験者は資料の通り。

録画：全体説明会を録画する。全体ないしフンボルト奨学金の説明を公開する。

オンラインツール：全体説明会は Zoom Webinar（フンボルト協会）、分科会は Zoom Meeting（司会が設定）を使用する。また、高山先生に Zoom meeting room を1つ設定していただき、手続きなどで相談のある参加者が高山先生に相談できるようにする。

広報について

昨年度の留学説明会でも教育研究機関の偏りが大きく、本説明会の情報がまだまだ伝わっていないとの指摘があった。以下の方法で広報を行う。

- ① フンボルト協会ホームページへの掲載（資料5）
- ② 会員への協力要請（一般会員、支部長、協力申し出があった会員）
- ③ 教育・研究機関、学協会への広報依頼（ポスター掲示、電子掲示板、website への掲載）
前回電子掲示板への掲載は、京都大学、名古屋大学で行なった。掲示板への掲載だけでなく、ポスターを各部局に配布するなどが必要
- ④ 知り合いの研究者へ依頼（ポスター掲示、教育研究機関の電子掲示板や website への掲載）
広報依頼の際には案内文、教育研究機関への依頼文、ポスターのファイルが作成されているので、広報の際に利用されたい（案内文および依頼文は適宜変更可）。

登録と登録者への連絡について

12月17日のフンボルト協会常務理事会終了後に説明会の案内をホームページに掲載依頼し、掲載とともに登録を開始する（登録締め切りは3月15日を予定）。登録には Google Form を用い、登録時に分科会での事前質問を記載していただく。Google Form の自動返信を設定し、登録者が登録した内容を確認できるようにした。

登録締め切り後 登録者に Zoom webinar および meeting room の ID とパスコード、分科会司会／留学経験者の情報（資料4）を送付し、説明会の直前にリマインダーを送付する。



ドイツでの研究留学をめざす大学院生・若手研究者のための
オンライン

ドイツ研究留学説明会

アレクサンダー・フォン・フンボルト財団の奨学金は通常の奨学金とは異なり、奨学生がドイツの文化や社会に親しみ、生涯にわたってドイツと学術交流を行うことを目的とする歴史と定評のある奨学金制度です。DAADの博士課程向け奨学金は、ドイツでの学位取得だけでなく日本の博士課程在学中のドイツ留学も対象とします。その解説と、留学経験者との専門別少人数での情報交換を行います。

2023年3月25日(土) 14:45-18:30

全体説明会 14:45-15:50: 専門別分科会 16:00-18:30

開催方法: Zoomミーティング

参加無料 (事前登録が必要です)

説明会の詳細と事前登録は
日本フンボルト協会ホーム
ページ (<http://avh-jp.com>)
をご覧ください。

主催: 日本フンボルト協会
共催: ドイツ学術交流会 (DAAD)

後援: アレクサンダー・フォン・フンボルト財団



オンラインドイツ研究留学説明会のご案内

日本フンボルト協会では、若手研究者や大学院生を対象としたドイツ研究留学説明会をオンラインで開催いたします。関心のある方は是非ご参加ください。

フンボルト奨学金は、ドイツ政府が資金を拠出する公的な財団であるフンボルト財団が支給する奨学金で、博士の学位取得者を対象とし、博士研究員としてのドイツ研究留学を支援します。通常の奨学金とは異なり、奨学生がドイツの文化や社会に親しみ、生涯にわたってドイツと学術交流を行うことを目的とする歴史と定評のある奨学金制度です。このような目的に沿った、ドイツ語研修や、ドイツの社会や文化を知ることができる種々のプログラム、終了後のフォローアッププログラムなどが用意されています。

DAAD 奨学金は、フンボルト奨学金と同様、ドイツ政府の拠出金を主な財源とし、世界各国の優秀な学生・研究者の支援を目的とした様々なプログラムを提供しています。その中でも博士課程大学院生向けの奨学金は、ドイツで博士の学位を取得する方だけでなく、日本での博士の学位取得を目指す中で、一定期間ドイツでの研究滞在を希望する方も対象となっており、ご自身の目的に応じて助成を受けることが可能です。

新型コロナウイルス感染症流行下でも、選考や受け入れは通常通り行われています。

本説明会では、DAAD 奨学金（今回は博士向けの研究奨学金のみ）およびフンボルト奨学金の解説などの全体説明会と、現在ドイツ留学中の奨学生およびドイツ留学から帰国した留学経験者（分科会によっては留学経験者のみ）と専門別、少人数で交流する専門別分科会を行います。事前登録者にはあらかじめ留学経験者の留学先研究機関と専門分野をお知らせします。

日時：2023年3月25日（土）14:45-18:30

全体説明会 14:45-15:50

1. DAAD 奨学金（博士向け研究奨学金）についての説明(14:45-15:15)
2. フンボルト奨学金および日本フンボルト協会による留学支援についての説明（15:15-15:50）

専門別分科会 16:00-18:30

現在留学中の奨学生や留学経験者と交流、情報交換を行います（分科会によっては留学経験者のみ）。

博士課程学生として留学するか、あるいは、博士研究員として留学するか、また、専門分野により、以下の分科会を設定します。

博士研究員としての留学（フンボルト）：人文科学、社会科学、理工学、生命科学、医学の5つ分科会に分かれます

博士課程大学院生としての留学（DAAD）：専門別には分かれず1つの分科会を行います。

参加費：無料

対象：ドイツで博士課程大学院生または博士研究員として研究に携わることに
関心がある若手研究者および大学院生。大学生または修士課程大学院生として
留学することを考えられている場合は対象となりません。

開催方法：Zoom ウェビナー(全体説明会) Zoom ミーティング(専門別分科会)
事前登録者にミーティング ID とパスコードをお知らせします

事前登録の方法：[グーグルフォーム（こちら）](#) から回答してください。

事前登録期間：2022年12月18日—2023年3月15日

オンラインドイツ研究留学説明会を開催します

日本フンボルト協会では、若手研究者や大学院生を対象としたドイツ研究留学説明会をオンラインで開催いたします。関心のある方は是非ご参加ください。

フンボルト奨学金は、ドイツ政府が資金を拠出する公的な財団であるフンボルト財団が支給する奨学金で、博士の学位取得者を対象とし、博士研究員としてのドイツ研究留学を支援します。通常の奨学金とは異なり、奨学生がドイツの文化や社会に親しみ、生涯にわたってドイツと学術交流を行うことを目的とする歴史と定評のある奨学金制度です。このような目的に沿った、ドイツ語研修や、ドイツの社会や文化を知ることができる種々のプログラム、終了後のフォローアッププログラムなどが用意されています。

DAAD 奨学金は、フンボルト奨学金と同様、ドイツ政府の拠出金を主な財源とし、世界各国の優秀な学生・研究者の支援を目的とした様々なプログラムを提供しています。その中でも博士課程大学院生向けの奨学金は、ドイツで博士の学位を取得する方だけでなく、日本での博士の学位取得を目指す中で、一定期間ドイツでの研究滞在を希望する方も対象となっており、ご自身の目的に応じて助成を受けることが可能です。

新型コロナウイルス感染症流行下でも、選考や受け入れは通常通り行われています。

本説明会では、DAAD 奨学金（今回は博士向けの研究奨学金のみ）およびフンボルト奨学金の解説などの全体説明会と、現在ドイツ留学中の奨学生およびドイツ留学から帰国した留学経験者（分科会によっては留学経験者のみ）と専門別、少人数で交流する専門別分科会を行います。事前登録者にはあらかじめ留学経験者の留学先研究機関と専門分野をお知らせします。

日時： 2023年3月25日（土）14:45-18:30

全体説明会 14:45-15:50

1. DAAD 奨学金（博士向け研究奨学金）についての説明(14:45-15:15)

2. フンボルト奨学金および日本フンボルト協会による留学支援についての説明 (15:15-15:50)

専門別分科会 16:00-18:30

現在留学中の奨学生や留学経験者と交流、情報交換を行います（分科会によっては留学経験者のみ）。

博士課程学生として留学するか、あるいは、博士研究員として留学するか、また、専門分野により、以下の分科会を設定します。

博士研究員としての留学（フンボルト）：人文科学、社会科学、理工学、生命科学、医学の5つ分科会に分かれます

博士課程大学院生としての留学（DAAD）：専門別には分かれず1つの分科会を行います。

参加費：無料

対象：ドイツで博士課程大学院生または博士研究員として研究に携わることに
関心がある若手研究者および大学院生。大学生または修士課程大学院生として
留学することを考えられている場合は対象となりません。

開催方法：Zoom ウェビナー(全体説明会) Zoom ミーティング(専門別分科会)
事前登録者にミーティング ID とパスコードをお知らせします

事前登録の方法：[グーグルフォーム \(こちら\)](#) から回答してください。

事前登録期間：2022年12月18日—2023年3月15日

分科会担当者 資料1-5

	司会				若手フンボルティアーナ(情報提供)			
	現所属	ドイツ留学	専門分野	現所属	ドイツ留学先	専門分野		
理工系	居城邦治	北海道大学 電子科学研究所	マインツ大学有機化学研究所(1993-1994)	分子科学	水流翔太	理研 計算科学研究センター (R-CCS)	ボーフム大学 (2020年)	電子分光
	田中 功	京都大学大学院 工学研究科	マックスプランク金属研究所 (シュトゥットガルト)(1992-1993)	材料工学	齋藤文登	Department of Chemistry, Ludwig Maximilian University, München	ミュンヘン大学化学部	有機化学
生命科学系	赤沼哲史	早稲田大学 人間科学学術院	ケルン大学生化学研 (2001-2003)	タンパク質化学、実験進化学	小嶋大造	東京大学大学院農学 生命科学研究所	ベルリン自由大学 日本研究所(ベルリン) (2021年7月~2022年1月)	農政学
	原田英美子	滋賀県立大学 環境科学部	ライプニッツ植物生化学研究所(ハレ) (2002-2005)	植物科学・環境科学	三木健	龍谷大学先端理工学部	ライプニッツ淡水生態学及び 内水面資源管理研究所 (シュテヒリン) (2015夏・2016夏・2017夏)	生態学
					鮎川侑	理化学研究所、 マックスプランク 植物育種学研究所	マックスプランク植物育種学 研究所(ケルン) (2021年7月~)	植物病理学
医学系	村上丈伸	鳥取大学医学部	ゲーテ大学神経内科(フランクフルト) (2008-2011)	神経内科学	藤井 渉	京都府立医科大学	ボン大学、生命科学研究所 (LIMES) (2016-2019)	免疫内科学
	鐺田武志	日本大学歯学部	ケルン大学遺伝研、マックスプランク 免疫生物学研究所(フライブルグ) (1988-1991)	免疫学	岩崎 優子	ボン大学	ボン大学(2022-)	眼科学、神経科学
					常世田 好司	鳥取大学医学部	ドイツリウマチ研究所 (ベルリン) (2005-2009、2012-2020)	免疫学
人文科学系	松本尚子	上智大学法学部	マックスプランク・法史法理論研究所 (フランクフルト)(2006-2007)	法史学	今野 元	愛知県立大	2021ジーボルト賞 現代史研究所(ミュンヘン) (2022)	思想史
	榑原哲也	東京女子大学	ブッパータール大学 (1995-1996、1997、1998、1999)	哲学	長谷川 修一	立教大学	2019フンボルト研究賞 ミュンヘン大学(2020-2021、 2021、2022)	ヘブライ語聖書学・ 西アジア考古学
					竹峰 義和	東京大学	ギーセン大学 (2019-2020)	文学
社会科学系	金 尚均	龍谷大学	ボン大学法学部(2002-2003)	刑事法学	ト部 匡司	広島市立大	バンベルク大学 (2019-2020)	教育学
	渡部美由紀	名古屋大学 法学研究科	コンスタンツ大学法学部(2008-2010)	民事法学	高田 倫子	大阪公立大	ブツェリウス・ロースクール (2018-2019)	法学

全体説明会 個別相談	高山 佳奈子	京都大学	ケルン大学法学部(1999-2000)、 フランクフルト(ゲーテ)大学法学部 (2007)	法学
---------------	--------	------	---	----

自主製作パンフレットについて

高山 佳奈子

当協会の留学説明会に参加したポスドク研究者の藤原素子氏と若手フンボルトイアーナの山田雅俊氏が同分野の研究者のために自主製作したパンフレットの内容が、オンラインジャーナル「素粒子論研究」に掲載されました。

https://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~soken.editorial/sokendenshi/vol38/sokendenshi_2022_38_2.html

『フンボルト奨学金 応募のすすめ』

藤原素子（東京大学）、山田雅俊（ハイデルベルク大学）

素粒子論研究・電子版 Vol 38 (2022) No. 2

【概要】「本資料は、ドイツの奨学金制度の一つであるフンボルト財団 (Alexander von Humboldt-Stiftung/Foundation) の奨学金(Stipendium/scholarship) への応募方法等をまとめたものです。フンボルト奨学金制度の説明会に参加した藤原による採択率などのデータ説明や、奨学生の具体的一例として山田の経験談を記述しています。」

<https://www2.yukawa.kyoto-u.ac.jp/~soken.editorial/introduction.html>

「素粒子論研究」という機関誌は、「素粒子論に関する論文、研究会報告、講演、講義、および研究体制その他素粒子論に関係のある諸問題についての意見等を掲載」するもので、「自由かつ気楽に研究や意見を表明することを主な目的にしていますので、原則として本誌に掲載される論文等に対しては、審査を行っておりません」。また「素粒子論研究電子版の投稿ファイル等の著作権は、原則、著者に属する」とあります。

藤原氏からの連絡は次のとおりです。

「私たちとしましては、作った資料がフェローシップに興味のある方々の役に立つのであれば、これ以上嬉しいことはありません。ご自由にお使いください。例えば、ひとつ考えられる案としては、日本フンボルト協会ホームページに上記リンクを掲載してもらうことが考えられます。これ以外の形態（eg. 印刷して配布、PDF形式での配布、など）でも、協会の方々の広報に自由に使用いただければ幸いです。」

山田氏はウェブサイトの「雑記帳」への投稿資格があるので、類似の扱いにすることも可能かと存じます。ご検討いただければ幸いです。（高山）

2022年5月11日
日本フンボルト協会理事長 伊藤 眞

会員の皆様には、ますますご清祥のことと存じます。

未だにコロナ禍の終息が見えず、また、世界情勢も予断を許さない状況ですが、本協会は、日独学术交流の促進および学術情報の発信などの活動を、これまで通り積極的に行ってまいりますので、引き続きご支援、ご協力をよろしくお願いいたします。

＊ ＊ 2022 年度総会のご案内 ＊ ＊

2022 年度総会は、昨年度と同様に、Zoom によるオンライン形式で 6 月 11 日（土）に行います。詳細は、下記の総会プログラムをご覧ください。ドイツ大使にご講演をお願いしております。お忙しい中とは、存じますが、ご参加の程、よろしくお願いいたします。

総会にご参加いただける皆様は、次頁の FAX 回答用紙またはメールで以下の項目を 6 月 8 日までに事務局までご連絡ください。

ご回答いただいた方には、開催日の 1 週間ほど前に、Zoom のリンク先をご連絡いたします。

また、ドイツ関連学術情報に関して、事務局からのメール送付についておうかがいいたしますので、併せてご連絡ください。

- | |
|--|
| ＊ お名前 _____ |
| ＊ メールアドレス _____ |
| ＊ <input type="checkbox"/> 総会に参加します。 <input type="checkbox"/> 講演会に参加します。 |
| ＊ <input type="checkbox"/> 学術情報の送付を希望しない。 |

＊会員総会プログラム

日時：2022年6月11日（土）14時から

時間	プログラム
13:15 – 14:00	常務理事会・理事会（会議構成員の方には、別途ご参加のお願いをお送りします。）
ここから会員参加の年次総会プログラム開始	
14:00・14:50	== 日本フンボルト協会 2021 年度会員総会 == 1. 理事長挨拶 2. 活動報告と決算 3. 活動方針と予算 4. その他
15:00 – 16:00	== 講演会 == 演者：Dr.Clemens von Goetze 氏（駐日ドイツ連邦共和国大使） 題目：„Aktuelle Perspektiven der deutsch-japanischen Zusammenarbeit“ 「日独協力関係の現状と展望について」（逐次通訳）

～～FAX の場合(番号 03-3582-6080)には以下の部分を
または E-mail (Alumni@daadjp.com)でもお使いください。～～～

FAX 回答用紙 6月8日(水) 締切です。

《①参加申込》

会員お名前	
当日ご使用の E-mail アドレス	
ご参加のプログラム	<input type="checkbox"/> 総会事務協議に参加します <input type="checkbox"/> 講演会に参加します <input type="checkbox"/> 総会にも講演会にも参加しません

《②事務局からのドイツ関連の学術情報の送付について》

今後、送付を希望しない場合は、チェックを入れてください。

メールで送付を希望しない

日付 _____

年会費納入のお願い

2022 年度年会費 4,000 円を同封のゆうちょ銀行払込取扱票にて納入をお願いします。
本協会は会員の会費により運営されております。逼迫する財政状況をご理解いただき、是非ともご協力をお願いいたします。

以下の銀行へもお振込みいただけます。(いずれも名義は日本フンボルト協会です。)

* 三菱 UFJ 銀行 青山通支店	普通預金	0192358
* みずほ銀行 赤坂支店	普通預金	2149297
* 二井住友銀行 赤坂支店	普通預金	9019627

お問い合わせ等は、日本フンボルト協会事務局までお願いします。

E-mail: alumni@daadjp.com Tel. Fax 03-3582-6080

役員（顧問を除く）再任に関する理事会申し合わせ

（2019年6月2日 常務理事会・理事会にて承認）

役員改選に関して、75歳以上の者は、再任を希望しないものとする。

		Name	Vorname	勤務先・役職	支部名
理事	居城 邦治	Ijiro	Kuniharu	北海道大学 電子科学研究所	北海道
理事	水野 浩二 (新)	Mizuno	Koji	北海道大学 法学部	北海道
理事	中沢 大悟 (新)	Nakazawa	Daigo	北海道大学病院	北海道
理事	長谷川 隆文	Hasegawa	Takafumi	東北大学 大学院医学系研究科	東北
理事	須田 利美	Suda	Toshimi	東北大学 電子光物理学研究センター	東北
理事	田所 諭	Tadokoro	Satoshi	東北大学 大学院情報科学研究科	東北
理事	縣 公一郎	Agata	Koichiro	早稲田大学 政治経済学術院	関東
理事	荒木 稚子	Araki	Wakako	埼玉大学 大学院理工学研究科	関東
理事	林 香里	Hayashi	Kaori	東京大学 大学院情報学環	関東
理事	広渡 清吾	Hirawatari	Seigo	東京大学 名誉教授	関東
理事	星野 宏美	Hoshino	Hiromi	立教大学 異文化コミュニケーション学部	関東
理事	井田 良	Ida	Makoto	中央大学 大学院法務研究科、慶應義塾大学 名誉教授	関東
理事	伊藤 眞	Itoh	Makoto	筑波大学 人文社会科学研究科	関東
理事	笠井 修	Kasai	Osamu	中央大学 法科大学院	関東
理事	香田 芳樹	Koda	Yoshiki	慶應義塾大学 文学部	関東
理事	松本 洋一郎	Matsumoto	Yoichiro	東京大学 名誉教授、前：東京理科大学 学長	関東
理事	仲道 祐樹 (新)	Nakamichi	Yuki	早稲田大学 社会科学総合学術院	関東
理事	西土 彰一郎	Nishido	Shoichiro	成城大学 法学部	関東
理事	田口 正樹 (新)	Taguchi	Masaki	東京大学 大学院法学政治学研究科	関東
理事	高橋 宗五	Takahashi	Sogo	東京大学 名誉教授	関東
理事	高橋 輝暁	Takahashi	Teruaki	立教大学 名誉教授	関東
理事	鐔田 武志	Tsubata	Takeshi	東京医科歯科大学 難治疾患研究所	関東
理事	渡辺 紀徳	Watanabe	Toshinori	東京大学 大学院工学系研究科	関東
理事	小坂 光一	Kosaka	Koichi	名古屋大学 名誉教授	中部
理事	種村 眞幸	Tanemura	Masaki	名古屋工業大学 物理工学専攻	中部
理事	和田 肇	Wada	Hajime	名古屋大学 名誉教授	中部
理事	浅田 和茂	Asada	Kazushige	立命館大学 衣笠総合研究機構特別研究フェロー、 大阪市立大学 名誉教授	関西
理事	伏木 信次	Fushiki	Shinji	京都府立医科大学 研究質管理センター長/特任教授・名誉教授、 京都中部総合医療センター 総長	関西
理事	細野 眞 (新)	Hosono	Makoto	近畿大学 医学部	関西
理事	金 尚均	Kim	Sangyun	龍谷大学 法学部	関西
理事	三木 順子 (新)	Miki (Hirokane)	Junko	京都工芸繊維大学 大学院工芸科学研究科	関西
理事	守矢 健一	Moriya	Kenichi	大阪公立大学 大学院法学研究科	関西
理事	西川 伸一	Nishikawa	Shin-Ichi	京都大学 名誉教授	関西
理事	小川 暁夫	Ogawa	Akio	関西学院大学 文学部文学言語学科	関西
理事	岡林 洋	Okabayashi	Hiroshi	同志社大学 人文科学研究所 元所長	関西
理事	小澤 守	Ozawa	Mamoru	関西大学 名誉教授、関西大学 社会安全研究センター 主幹研究員	関西
理事	櫻田 嘉章	Sakurada	Yoshiaki	京都大学 名誉教授、甲南大学 名誉教授	関西
理事	澤 芳樹	Sawa	Yoshiki	大阪大学 医学系研究科	関西
理事	高田 篤	Takada	Atsushi	大阪大学 大学院法学研究科	関西
理事	高橋 義人	Takahashi	Yoshito	平安女学院大学 特任教授、京都大学 名誉教授	関西
理事	高山 佳奈子	Takayama	Kanako	京都大学 大学院法学研究科	関西
理事	床谷 文雄	Tokotani	Fumio	奈良大学 文学部文化財学科、大阪大学 名誉教授	関西
理事	山上 浩志	Yamagami	Hiroshi	京都産業大学 理学部物理科学科	関西
理事	山本 敬三	Yamamoto	Keizo	京都大学 大学院法学研究科	関西
理事	大下 浄治	Ohshita	Joji	広島大学 大学院工学研究院	中四国
理事	坂越 正樹	Sakakoshi	Masaki	広島文化学園大学 学長、広島大学 名誉教授	中四国
理事	宇高 恵子	Udaka	Keiko	高知大学 医学部	中四国

		Name	Vorname	勤務先・役職	支部名
理事	嶋田 洋一郎 (新)	Shimada	Yoichiro	九州大学 名誉教授	九州
理事	武内 謙治	Takeuchi	Kenji	九州大学 大学院法学研究院	九州

評議員	寺田 龍男	Terada	Tatsuo	北海道大学 大学院メディア・コミュニケーション研究院	北海道
評議員	稲葉 馨	Inaba	Kaoru	立正大学 法学部、東北大学名誉教授	東北
評議員	橋本 陽子 (新)	Hashimoto	Yoko	学習院大学 法学部	関東
評議員	市場 みすず	Ichiba	Misuzu	日本女性薬剤師会 理事	関東
評議員	小林 尚登	Kobayashi	Hisato	法政大学 デザイン工学部	関東
評議員	小西 飛鳥 (新)	Konishi	Asuka	平成国際大学 法学部法政学科	関東
評議員	桑原 聡 (新)	Kuwahara	Satoshi	新潟大学 名誉教授	関東
評議員	宮川 新平	Miyakawa	Shimpei	元：(一社)日本フルードパワーシステム学会理事、 Aqua-ハイドロリックス代表	関東
評議員	大崎 博之	Ohsaki	Hiroyuki	東京大学 大学院新領域創成科学研究科	関東
評議員	坂井 建雄	Sakai	Tatsuo	順天堂大学 保健医療学部	関東
評議員	榊原 哲也	Sakakibara	Tetsuya	東京女子大学 現代教養学部	関東
評議員	澤田 誠二	Sawada	Seiji	(社)団地再生支援協会・最高顧問、 明治大学・アジア都市建築研究所・客員研究員	関東
評議員	仙名 保	Senna	Mamoru	東北大学・材料科学高等研究所・招聘研究員、 慶應義塾大学名誉教授	関東
評議員	山名 淳 (新)	Yamana	Jun	東京大学 大学院情報学環・学際情報学府	関東
評議員	石田 秀治	Ishida	Hideharu	岐阜大学 応用生物科学部	中部
評議員	中村 英樹	Nakamura	Hideki	名古屋大学 大学院環境学研究科	中部
評議員	平田 健治	Hirata	Kenji	大阪大学名誉教授、大阪経済法科大学特別専任教授	関西
評議員	宮田 興子	Miyata	Okiko	神戸薬科大学 学長	関西
評議員	高橋 英治	Takahashi	Eiji	大阪市立大学 大学院法学研究科	関西
評議員	梅川 尚嗣	Umekawa	Hisashi	関西大学 工学部機械工学科	関西
評議員	日置 善郎	Hioki	Zenro	徳島大学名誉教授	中四国
評議員	田代 聡	Tashiro	Satoshi	広島大学 原爆放射線医科学研究所	中四国
評議員	遠藤 歩 (新)	Endo	Ayumu	九州大学 大学院法学研究院	九州
評議員	五十君 麻里子 (新)	Igimi	Mariko	九州大学 大学院法学研究院	九州

監事	芳賀 雅顕	Haga	Masaaki	慶應義塾大学 法科大学院	関東
監事	吉川 泰弘	Yoshikawa	Yasuhiro	岡山理科大学 獣医学部	中四国
顧問	西原 春夫	Nishihara	Haruo	アジア平和貢献センター理事長、早稲田大学名誉教授、 元：早稲田大学総長	関東
顧問	奥田 昌道	Okuda	Masamichi	京都大学名誉教授、日本学士院会員、元：最高裁判所判事	関西
顧問	佐々木 毅	Sasaki	Takeshi	学士会理事長、東京大学名誉教授、元：東京大学総長	関東



Virtual Humboldt Colloquium
"Top Global Research" and the Humboldt Network:
New Frontiers of German-Japanese Scientific Cooperation

17 and 18 November 2022

Preliminary Programme
(as of November 2022)

Thursday, 17 November 2022

<p>Bonn: 9:00 a.m. Tokyo: 5:00 p.m.</p>	<p>Welcome and Opening</p> <p>Ceremonial opening with greetings from</p> <ul style="list-style-type: none"> - Prof. Dr Hans-Christian Pape, President of the Alexander von Humboldt Foundation - Prof. Dr Teruo Fujii, President University of Tokyo - Dr Clemens von Goetze, Ambassador to Japan - Vito Cecere, Director for Academic Relations, Education and Research Policy Divisions, Federal Foreign Office <p>Moderation: Dr Steffen Mehlich and Dr Judith Schildt Alexander von Humboldt Foundation</p>
<p>Bonn: 9:40 a.m. Tokyo: 5:40 p.m.</p>	<p>Keynote</p> <p>Prof. Dr Marco Caccamo Technical University Munich <i>"High-Performance Real-Time Computing for Cyber-Physical Systems"</i></p> <p>Prof. Dr Aeka Ishihara University of Tokyo „Goethes lebendiges Netzwerk, grenzenlos und ohne Ende“</p>
10-minute break	
<p>Bonn: 10:35 a.m. Tokyo: 6:35 p.m.</p>	<p>Group Sessions</p> <p>Great networking opportunity! Meet other Humboldtians, Early Career Researchers and the Humboldt Foundation's staff in small groups.</p>
5-minute break	
<p>Bonn: 11:30 a.m. Tokyo: 7:30 p.m.</p>	<p>„Let's Talk“</p> <p>in conversation with the Secretary General Dr Enno Aufderheide</p>
<p>Bonn: 11:45 a.m. Tokyo: 7:45 p.m.</p>	<p>Wrap-up</p>

<p>Bonn: 12:05 p.m. Tokyo: 8:05 p.m.</p>	<p>Pub Quiz</p> <p>In small groups, participants playfully compete in answering questions from science to culture</p>
--	--

Friday, 18 November 2022

<p>Bonn: 9:00 a.m. Tokyo: 5:00 p.m.</p>	<p>Welcome</p>
<p>Bonn: 9:30 a.m. Tokyo: 5:30 p.m.</p>	<p>Interdisciplinary Parallel Workshops</p> <p>Selected Humboldtians and Early Career Researchers present their research in parallel workshops. Humboldtians give a short presentation while Early Career Researchers present their research in form of Elevator Pitches.</p> <p>Workshop 1 – Humanities</p> <p>Moderation: Judith Pfeiffer</p> <p>Fujii, Jun <i>“Kukai’s Secret Codes: Protest against Emperor Kanmu”</i></p> <p>Grüneberg, Patrick <i>“Phenomenal biomechanics of gait initiation”</i></p> <p>Kano, Chihiro (Elevator Pitch) <i>„Rezeptionen des Rattenfängers von Hameln in Japan“</i></p> <p>Kashiwagi, Kikuko <i>„Auslandsgermanistik heute und morgen“</i></p> <p>McGaughey-Slane, Hanna Sereina <i>“Close and Distant Reading: Annotation, NLP, and Statistics for Digital Text Analyses”</i></p> <p>Sakamoto, Yasuhiro <i>„Bild- und Musikwahrnehmung hinter und nach der COVID-19-Pandemie“</i></p> <p>Sanada, Haruko <i>“A Study of the “Natural” Equilibrium between the Sentence and Clause Length”</i></p> <p>Tamahide, Shoha (Elevator Pitch) <i>“The Boundary between Male Homosexuality and Friendship in Modern Germany”</i></p> <p>Workshop 2 – Law / Social and Business Administration</p> <p>Moderation: Masahisa Deguchi</p> <p>Agata, Koichiro <i>„Digitale Transformation in der Japanischen Regierung“</i></p>

Bebenroth, Ralf
"Does Cultural Openness Matter? Implementation of Common Corporate Language in a G-Jap Joint Venture"

Fujita, Masaki (Elevator Pitch)
"Issues Surrounding Diversification on Corporate Boards in Japanese Corporations"

Kawasaki, Satoshi (Elevator Pitch)
„Die Interaktion zwischen der sozialen Bewegung und der Verwaltung der BRD in den 1960/70er Jahren“

Kono, Toshiyuki
"Governance of Cultural Heritage Conservation in a post-traumatic context"

Saito, Hiroshi
„Richterliche Rechtsfortbildung ueber das Allgemeine Persoenlichkeitsrecht“

Schinkowsky, Christoph
"Urban railway passenger manners and their development in post-war and contemporary Tokyo"

Workshop 3 – Life sciences and medicine

Moderation: Ulrike Holzgrabe and Takeshi Tsubata

Cameron, Silke
„Bedeutung der japanischen Kampo-Medizin in Forschung und Therapie von Tumoren des Gastrointestinums“

Murakami, Takenobu
„Utility of transcranial magnetic stimulation for neurology and neuroscience“

Parkner, Thomas
"Reactivation of an earthflow by gully incision based on historical aerial photographs in New Zealand"

Shi, Dongbo
"How plants get thicker? Revealing the characteristics of cambium stem cells."

Spallek, Thomas
"Phtheirospermum japonicum – how a Japanese plant transformed molecular research on parasitic weeds"

Xu, Peiliang
"A rigorous road towards innovating accelerometers technologically"

Workshop 4 – Natural sciences and mathematics

Moderation: Christian Werner Becker-Asano

Fujiwara, Motoko (Elevator Pitch)
"Capture of Dark Matter in Neutron Stars"

Fujiwara, Hidenori
"Detecting halfmetallic electronic structures of the spintronic materials using RIXS-MCD"

Kolbe, Niklas
"Data based approaches to the modeling of traffic flow networks"

	<p>Ohmori, Kenji <i>"Ultrafast quantum computer/simulator operating at the single-atom level"</i></p> <p>Peters, Robert <i>"Nonlinear response in strongly correlated systems"</i></p> <p>Schimmel, Saskia Carola <i>"Global progress through international collaboration – the example of ammonoothermal growth of GaN"</i></p> <p>Yamaguchi, Atsushi <i>"An optical nuclear clock"</i></p> <p>Yee, Jingzu (Elevator Pitch) <i>"Explainable Artificial Intelligence (XAI) for Observation and Modeling of Drop Impact"</i></p> <p>Workshop 5 – Chemistry</p> <p>Moderation: Ulrike Krewer and Masahiro Murakami</p> <p>Abe, Manabu <i>"Is pai-single bonding possible?"</i></p> <p>Fujiwara, Masazumi <i>"Qunatum photonics collaboration with Humboldt University of Berlin over the 10 years"</i></p> <p>Karthaus, Olaf <i>"Biopolymerforschung in Hokkaido"</i></p> <p>Tsuru, Shota <i>"X-ray absorption of aqueous solution in collaboration between groups in Germany and Japan"</i></p> <p>Tsushima, Satoru <i>"Japan-Germany Research Network on Actinide Chemistry"</i></p> <p>Yamada, Sakue <i>"Cooperation between Japan and Germany in the field of experimental high energy particle physics"</i></p>
<p>Bonn: 11:40 a.m. Tokyo: 7:40 p.m.</p>	<p>(Active) Break</p> <p>Stretching and relaxation exercises</p>
<p>Bonn: 12:00 p.m. Tokyo: 8:00 p.m.</p>	<p>Panel discussion and Closing Plenary Session</p> <p><i>"Top Global Research" and the Humboldt Network: New Frontiers of German-Japanese Scientific Cooperation</i></p> <ul style="list-style-type: none"> - Dr Katja Yang Alexander von Humboldt Foundation - Prof. Makoto Itoh University of Tsukuba - Prof. Dr Kanako Takayama Kyoto University - Prof. Dr Philipp Osten Keio University

	<ul style="list-style-type: none"> - Prof. Dr Shigeyoshi Inoue Technical University Munich - Dr. Elena Kozgunova Nagoya University
<p>Bonn: 1:00 p.m. Tokyo: 9:00 p.m.</p>	<p>(Optional) Networking</p> <p>Each participant can make appointments with other participants and cooperation partners via the event platform. Appointment slots are offered in the time after the closing plenary (from 9:00 p.m. to 10:00 p.m.).</p>

Satellite Events for specific target groups

The Humboldt Colloquium is accompanied by two satellite events for specific target groups.

The additional session for **Early Career Researchers** will focus on specific questions of researchers who consider international mobility to build a career. Furthermore, the sponsorship programs of the Alexander von Humboldt Foundation will be presented.

By offering a session for **female participants**, the Humboldt Foundation aims to promote the networking and exchange among this group especially.

Wednesday, 16 November 2022

<p>Bonn: 10:00 – 10:45 a.m. Tokyo: 6:00 – 6:45 p.m.</p>	<p>The Humboldt Experience</p> <p>Humboldtians talk about their experiences</p> <ul style="list-style-type: none"> - Prof. Dr Yuko Shimada-Sato Kyoto University - Prof. Dr Shinichi Furuya Sony Lab Tokyo - Prof. Dr Yasuhiro Sakamoto Shinshu University
<p>Bonn: 10:45 – 11:30 a.m. Tokyo: 6:45 – 7:30 p.m.</p>	<p>Workshop for Early Career Researcher</p> <p>Humboldt Foundation staff offer information and advice with a focus on the sponsorship programs of the Humboldt Foundation</p> <ul style="list-style-type: none"> - Axel Karpenstein DAAD Regional Office Tokyo - Prof. Dr. Kanako Takayama Ambassador Scientist to Japan and Member of the Humboldt Alumni Association Japan - Dr. Bernd M. Schmidt JSPS Alumni Association - Prof. Dr. Katja Koelkebeck German JSPS Alumni Association - Dr. Michelle Herte Alexander von Humboldt Foundation

	- Daniel Dölling Alexander von Humboldt Foundation
--	---

Saturday, 19 November 2022

Bonn: 10:00 - 11:30 a.m. Tokyo: 6:00 - 7:30 p.m.	Session for female participants Conversation with female Humboldtians
---	---

<p>11月16日 (水) 18時から</p>	<p>(Early Career Researcher 向け) プログラム</p> <ul style="list-style-type: none"> ●経験談 *古矢晋一会員 (Sony Computer Science Laboratories) *坂本泰宏会員 (信州大学) ●ワークショップ 並行して開催 <ol style="list-style-type: none"> 1. DAAD 東京所長 Karpenstein 氏 2. JSPS 3. 高山先生担当 フンボルトの説明コーナー
<p>17日(木) 17時</p>	<p>●オープニング、メインプログラム 基調講演 31名の Humboldtianer が参加</p>
<p>18日(金) 17時</p>	<p>●(学術分科会) 並行して開催 (若手研究者も Elevator Pitsch として報告した)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Humanities 全部で22名参加、報告者7名のうち4名が会員、会員参加は3名 そして若手研究者 2. Law/Social and Business Administration 全22名参加、司会が出口先生、報告者 6名のうち3名が会員、会員参加5名、そして若手研究者 3. Life Science and medicine 全参加17名、鏑田先生が司会、報告者6名のうち1名 が会員、会員参加は3名、そして若手研究者 4. Natural sciences and mathematics 全参加19名、報告者8名のうち3名が会員、 会員参加は3名、あとは若手研究者 5. Chemistry 全参加19名、報告者6名全員が会員、会員参加3名、そして若手研究者 <p>●20時からパネルディスカッション 参加者20名、フンボルト財団担当者4名 パネラーとして伊藤理事長、高山先生、Ostenさん、井上茂義さん (TU Muenchen)</p>
<p>19日(土)</p>	<p>●Section for female participants (女性研究者のための企画) 参加9名、フンボルト担当者4人、司会は真田治子さん (未会員)</p>

(資料6)

日独共同研究奨学金辞退の申し出に関する手続き (内規)

2022年12月17日
常務理事会 (同奨学金実施委員会) 承認

1. 奨学金辞退の申し出に対する対応手続き

- (1) 採択プロジェクト研究の申請者から、助成期間前または期間中に、同プロジェクト研究の奨学金辞退の申し出があった場合には、理事長 (同奨学金実施委員長) は速やかに常務理事会 (同奨学金実施委員会) を招集し、以下の規程に従って対応策を協議する。
- (2) 当該プロジェクトの助成辞退の申し出が、同奨学金実施委員会で承認された場合、辞退申し出の期日 (助成期間前または助成期間中) にかかわらず、繰り上げ採択は行わず、当該年度の採択プロジェクト (通常2件) は1件のみとする。
- (3) 同奨学金選考委員長は、速やかに同奨学金選考委員会員に経緯を説明し了承を得る。

2. 奨学金の返還について

- (1) 辞退が、助成研究期間開始前であれば、申請者は、奨学金がすでに支給されている場合、その全額を返金する。
- (2) 辞退が、助成研究期間開始後であれば、申請者は、奨学金の辞退が承認される期日 (日独共同研究奨学金実施委員会の承認日) までに執行された予算額を除いた残額を返金する。その場合、当該プロジェクト研究の申請者は、①同プロジェクト研究の遂行が困難になった事由、②同プロジェクト研究を停止するまでの研究成果、③執行済み経費の内訳が記載された報告書を、所定の書式に基づき作成し、速やかに同奨学金実施委員会に提出する。

以上

《日独共同奨学金基金 口座》

収 入		支 出	
会員からの寄付 (2019年9月30日まで)	5,540,000円	2019年度2件分奨学金支給	1,000,000円
会員からの寄付 (2019年10月以降)	145,000円	印刷、事務用品(2019年度)	10,815円
外部の個人・企業からの寄付	4,840,000円	送金手数料	29,908円
利息 (2020年8月まで)	113円	2020年度2件分奨学金支給	1,000,000円
利息(2021. 02. 22)	39円	印刷、事務用品(2020年度)	9,946円
利息(2021. 08. 23)	36円	送金手数料	880円
利息(2022. 02. 21)	33円	2021年度2件分奨学金支給	1,000,000円
利息(2022. 08. 22)	32円	送金手数料	550円
奨学金1件返還分として (2022. 11. 11)	500,000円	2022年度2件分奨学金支給 (2022. 09. 13)	1,000,000円
		送金手数料	550円
		残 高	6,972,604円
合 計	11,025,253円	合 計	11,025,253円

《財政安定化基金 口座》

収 入	
会員からの寄付 (2019年9月30日まで)	2,000,000円
会員からの寄付 (2019年10月以降)	29,000円
利 息 (2020年8月まで)	15円
利息(2021. 02. 22)	9円
利息(2021. 08. 23)	9円
利息(2022. 02. 21)	9円
利息(2022. 08. 22)	9円
合 計	2,029,051円

(備考) 1. 寄付金振込手数料は、当初、日本フンボルト協会会計(予備費)から補填した。
 寄付期間終了後に、奨学金基金から振込手数料を支出し、日本フンボルト協会(予備費)に返金した。
 2. 2019年10月1日以降(募金締切以降) 会員から振り込まれた174,000円は、奨学金基金と財政安定化基金に、
 5:1の割合で、それぞれ145,000円と29,000円を振り分けた。(2020年4月4日の常務理事会で承認)

日本フンボルト協会 2022年度（2022年4月1日～2023年3月31日） 会計経過
 (2022年12月17日現在)

資料 8

(収入の部)						
項目	2021年度決算	2022年度の項目	2022年度予算	途中経過	内訳	
1 年会費	2,576,000	年会費	2,400,000	2,276,000	2019年度2口、2020年度1口、2021年度10口、2022年度553口、2023年度3口	
2 利息	17	利息	20	8	普通預金利子	
3 寄付	0	寄付	1,000,000	1,036,000		
4 フンボルト財団支援金	0	フンボルト財団支援金	0	0		
5 総会懇親会参加費	0	総会懇親会参加費	0	0		
6 収入小計	2,576,017	収入小計	3,400,020	3,312,008		
7 前年度繰越金	1,655,601	前年度繰越金	1,787,578	1,787,578		
8 収入計	4,231,618	収入計	5,187,598	5,099,586		
(支出の部)						
項目	2021年度決算	2022年度の項目	2022年度予算	途中経過	内訳	
9 総会・説明会等開催費	0	総会・説明会等開催費	100,000	0		
10 支部運営助成費	434,000	支部運営助成費	570,000	570,000	関東甲信越支部(200,000)、関西支部(200,000)、中部支部(20,000)、北海道支部(50,000)、九州支部(100,000)	
11 会合費	5,960	会合費	20,000	5,740		
12		シンポジウム、講演会等謝礼(新)	200,000	60,000	講演会の謝金3人分(岡田先生、城山先生、川村先生)	
13 通信費	279,879	通信費	350,000	299,714	会費請求・ニューズレターの送付等、会員への発送、電話使用料(友の会と折半)	
14 印刷・複写費	109,623	印刷・複写費	120,000	99,406	会報印刷など	
15 事務所施設利用費	43,758	事務所施設利用費	50,000	6,985	(以下DAAD友の会と折半) 電気代、事務所清掃代、ゴミ処理代	
16 事務用品費	104,041	事務経費(名称変更)	100,000	71,165	うちZoom設定費、事務用品費	
17 事務局人件費	1,381,382	事務局人件費	1,400,000	934,326	事務局員への謝金、発送の手伝い要員の費用、交通費	
18 振込手数料等	5,397	振込手数料等	5,000	4,947	銀行振込手数料	
19 予備費	80,000	予備費	100,000	70,112	DAADのMahnkeさん送別会支援、ドイツ大使館主催DAADMusikerコンサート支援	
20		寄付金払い出し(新) (4月14日に寄附口座に振替済)	1,000,000	1,036,000		
21 支出小計	2,444,040	支出小計	4,015,000	3,158,395		
22 次年度繰越	1,787,578	次年度繰越	1,172,598	1,941,191		
23 支出計	4,231,618	支出計	5,187,598	5,099,586		
(備考)						
① 日本フンボルト協会寄附口座 預金額 1,806,809円 (利息も含む、2022年12月07日現在)					日本フンボルト協会寄附口座	
② 2011年度アルムニ賞賞金25,000ユーロ=2,764,326円(利息を含む)は、ホームページと留学支援サイトの構築のためにあてられた。現在、残額が205,420円である。フンボルト財団の了承を得て、残額は、「ホームページ管理特別基金」の下におき、ホームページの維持管理のために使用する。					(現在残高 1,806,809円) 2022年度入金分 1,036,006円 (内訳)	
③ 会費納入会員数の推移(2015) 797 / (2016) 698 / (2017) 635 / (2018) 632 / (2019) 617 / (2020) 575 / (2021) 636 / (2022) 567 / (2023) / 3					(故) 加藤久雄会員 1,000,000円 他5件 36,000円 利息6円	

年会費未納者一覧（支部別） 2022年12月17日現在

資料9

	名誉会員	一度も 支払ってない	2013年度 のみ	2021年度の支払い	合計会員数	支払い率
北海道	1	12	1	19	47	0.4
東北	1	20	0	25	53	0.47
関東	19	199	12	245	622	0.39
中部	0	39	4	45	118	0.38
関西	1	123	5	152	367	0.41
中四国	0	26	3	44	92	0.478
九州	0	31	3	26	89	0.29
外国	0	0	0	1	13	0.07
Total	22	450		557	1401	0.397

2022年度だけの支払いは557人で 約40%となる

各支部からの報告

北海道支部 (居城支部長よりメールで報告)

4月から12月までの北海道支部の活動報告はございません。例年、3月にドイツ留学説明会もしくは支部講演会と、支部総会を開催してきました。今年度は、2023年3月25日(土)に本部主催の研究留学説明会がオンラインで開催されますので、これを受けて、説明会の後日に対面での個別相談会を北大内で開催したいと考えています。また、これに合わせて支部総会をオンラインで開催する予定です。研究留学説明会のポスターを北大内ならびに道内の大学に配布して宣伝活動に努めます。

支部講演会として、今年、フンボルト賞を受賞したウルフ デイビッド先生(北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター教授)の受賞記念講演会を開催できないかと考えておりましたが、本部でも講演会を検討されているとのことですので、北海道支部としてはサポートに回りたいと思います。もし、平日に開催されるのであれば、北大に対面の講演会場を設置して、現地参加とオンライン参加のハイブリッド開催も可能かと思えます。まだ、ご本人には打診しておりませんが、スラブ・ユーラシア研究センター長には状況を説明しております。

(以上) 支部長：居城邦治

東北 (須田支部長よりメールで報告)

前回の理事会以降の東北支部の動きはありません」、このことの報告をお願いします。
東北支部の理事メンバーが多忙のためまだ今年度の総会等の日程も決めることができていませんが、年度内開催を目指して動きたいとは考えています

関東甲信越 (井田支部長の代理で事務局から報告)

例年3月に総会を開催しているので、1月に幹事会を開催し、総会のプログラムを決定する予定です。

中部 (和田支部長より)

2022年度総会・懇話会・懇親会を行いました。

期日：2022年11月27日(日) 11時～14時30分

懇話会：(話題提供) 玉井 秀樹 氏(博士)(豊田合成株式会社 新価値開発部勤務)

テーマ：「ドイツ ブラウンシュバイク&ゲッティンゲンでの留学経験談(生活、旅行と研究)」それに先立ち、9月20日(水)に幹事会を開催しました。

関西 (西川支部長の代理で浅田理事が報告)

1) 10月23日 Zoomセミナーを開催。

講演者：原田英美子(滋賀県立大学 環境科学部 生物資源管理学科)

タイトル：ライブニッツ植物生化学研究所(IPB)で過ごした3年間

2) 3月4日、対面/zoomハイブリッドで総会を予定しており、山本先生に講演をお願いする予定で進めている

中四国 (坂越支部長より)

支部通信を作成発送したほか、前回常任理事会から特に新しい活動の報告はありません。

九州 (武内支部長からメールで報告)

来年の前半に総会と講演会を行うべく準備中です。